

つたぎわ



学校教育目標

わくわく学び
いきいき挑戦する
児童の育成

学習発表会を終えて

音楽担当

十一月三十日(土)に開催した「第三回蔦沢小学校学習発表会」では、保護者の皆様や地域の方をはじめ多くの皆様にお越しいただきました。ありがとうございました。

十月の運動会に引き続き、子どもたちは、「心を燃やせ 仲間と共に 全力笑顔の学習発表会」というスローガンのもと、集団としての力を高めながら、音楽や劇を楽しみ、表現する力を磨いてきました。その中で、自分や友だちのよさに気づき、認め合い、協力して一つのものをつくり上げていくことに喜びを感じ取ってほしいという願いをもって指導してきました。今年度は、一・二・五・六年生が音楽発表、三・四年生が劇発表をおこないました。その内容に少し触れたいと思います。

一・二年生は、斉唱と鍵盤ハーモニカの演奏、器楽合奏に取り組みました。低学年のうちは、頭声発音がまだ難しいのですが、毎回鼻に手を当てて響きを確認したり、「頭のとべんから噴水のように出す声」と表現して頭の中でイメージしながら声を出したりして、うちに少しずつ響きのある声が出せるようになっていきました。低音になるとどうしても音量が小さくなってしまっているので、本来であればお腹の力を使って音量を保つのですが、まだ低学年のうちは難しいので、元氣よく歌うところと響かせるところに分けて歌いました。しっかりと頬を上げて、元氣と笑顔を届けられたのではないかと思います。器楽合奏は、デイズ・ニーメドレーに挑戦しました。まずは、全員が鍵盤ハーモニカでメロディーをしっかりとつづけるようになってから、各楽器のパート練習をおこないました。上手く弾けずくじけそうになりながらも、全員最後まであきらめずに練習に一生懸命打ち込みました。演奏中、自分の手元も見つつ指揮者も見るといことも、意識してがんばりました。

三年生は、総合的な学習の時間で学んだ昔のくらしについて劇で表現しました。昔の子どもたちがメンコで遊んでいたことや、母親たちがタライで洗濯をしながら井戸端会議をしている様子、茶の間で父親が「こらー!」と叱る様子、初めてテレビがやって来て近所中から人々

が集まり感激する様子など、昭和初期の懐かしい要素が盛りだくさんでした。そのような時代を体験していない私達さえ、なぜか懐かしいと感じてしまう、日本の古き良き時代です。子どもたちは、役になりきって、昭和の楽しさを味わっていました。

四年生は、国語科で学習した「ごんぎつね(新美南吉作)」という物語を劇で表現しました。とある村の山に暮らす、ひとりぼっちの子ぎつね、ごん。いたずらっこのごんは、ある日、いつもの出来心で、川で魚をとっていた兵十のびくからうなぎを盗んでしまいます。ところが、しばらくして、兵十のお母さんが亡くなったことを知り、自分と同じひとりぼっちになってしまった兵十。もしかしたら、あのうなぎをお母さんは最後に欲しがったのかもしれない…。心を痛めたごんは、せめてもの償いにと、兵十のうちへ、来る日も来る日も、栗や松茸を届けに行きますが、そんなことは知らない兵十は、ごんを火縄銃で撃ちます。そして、土間に置かれた栗を見て、毎日食べ物を届けてくれたのがごんだと気づく、何とも悲しい結末のお話です。授業の中で子どもたちは、兵十とごんの様子や気持ちの変化を考え、話し合ってきました。いたずらっこのごんが憎めないごんの可愛さ、兵十を思いやるごんの優しさ、兵十のごんに対する怒りと、最後に後悔する気持ち。そのようなことを劇の中で表現するために、台詞の言い方や動きを試行錯誤しながら練習を進めてきました。本番は、その成果を十分に発揮することができました。

五・六年生は、合唱とリコーダーの演奏、器楽合奏に取り組みました。二部合唱は、他パートの声をよく聴きつつ、尚且つつられないように自分のパートを歌わなければならないので、大変難しいです。自分のパートをしっかりと歌おうと必死になりすぎるとお互いのパートの良さを打ち消し合ってしまうので、とにかく相手の声をよく聴くことが大切です。そして、いったんハーモニカが出来る上からととても心地よく歌うことができます。この心地よいハーモニカとなるまでかなりの練習と時間を要しました。まずは、響きのある声をつくり、そこからパート練習です。それぞれのパートを別々に歌うと正しい音程で歌えなくても、合わせるとうちま音程がくずれてしまいます。そこで、何度も何度も練習を重ね、徐々にハーモニカが奏

でられるようになりました。六年生にとっては小学校最後の学習発表会。これまでのことやこれからのことに思いを馳せながら歌ったことでしょうか。聴いているこちらも胸がいっぱいになりました。器楽合奏は、「宇宙戦艦ヤマト」のテーマソングに取り組みました。みなさんご存じでしょうか。五十年前にテレビで放送されたSFアニメです。発表会では、背景の絵も子どもたちが協力して描きました。合奏では、どのパートも難しいリズムが次々と出てくるので弾きこなすまでにとっても苦労しましたが、休み時間も進んで練習に励んだ成果もあり、正しく演奏できるといふようになりました。本番に向けてモチベーションも高潮の中、高学年らしい、迫力ある演奏をお届けすることができました。

この学習発表会の期間中、どの学年の子どもたちも練習に真剣に取り組む、本番では百パーセントの力を出し切ることができました。今回学んだことを今後の学習や生活に生かしながら、一学期のよい締めくくりをしたいと思います。

「安全」という言葉

安全担当

「安全」という言葉を学校でもよく耳にする機会があります。しかし、「安全」という言葉を説明してくださいと言われると「危なくない」や「怪我をしない」等、色々あると思います。安全の対義語は「危険」、安心の反対は「不安」と考えられます。安全が確保されると安心できるといいのですが、学校で「安全に」と子どもたちに声をかけていますが、本当に「安全」についてわかっているのかを不安に感じることがあります。

この十一月一日より、道路交通法の改正が行われました。主な内容は自転車の罰則規定の強化が主にされました。また「ながらスマホ」や「酒気帯び運転」等の違反者への罰則が強化されました。こういった改正の内容は年齢制限がなく適応されると警察の発表がありました。この話を、社会の授業中にしたところ、6年生はこの話をよく知っていました。他の学年では知らないか答えた子どもが多かったです。子どもたちは、普段自転車に乗っている時にしていることでも、違反に当たると驚いていました。その中でも多かったのは、「自転車の並走」でした。多くの子どもたちは、これが違反に当たるとは知らなかったようです。「ながらスマホ」はよく大人や高校生がしているところを見かけると話す子が多く、「酒気帯び運転」に関しては、子どもたちは直接関係がないと思っていたところ、飲酒をした人に自転車を貸すと、飲酒運転をした人と同じだけの罰則があると話をすると驚いていました。

その話の中で子どもたちに、「違反をすると罰金があるから、ルールを守るのかな」と問いかけたところ、子どもたちは「危ないからルールがあるんじゃないかな」や「ルールは危なくないようにするためにあるんじゃないかな」といった答えを出していました。また、ふり返りでは「今回ルールが厳しくなったことで、危ないことが多いとわかったので、危ないことを避けて自転車に乗りたい。」や「ルールができたから、危険なことがあるということを知った。」といったことを書いていた子どもがいました。

「安全」という言葉は、一人ひとりの意識が重要ではないかと思えます。今回の道路交通法の改正を機に一人ひとりが「安全」ということに意識を向ける、いいきっかけとなればと思います。



12月後半の行事予定

- 20日(金) 給食最終日 放課後チャレンジ塾
- 23日(月) 自治会別児童会 11:30 全校終会
- 24日(火) 2学期終業式 大掃除 11:00 全校終会
- 25日(水) ~ 1月7日(火) 冬休み
- ※12月29日(月) ~ 1月3日(金) は 学校施設の一時閉鎖となります。

1月前半の行事予定

- 8日(水) 3学期始業式 交通立ち番 11:00 全校終会
- 9日(木) 身体測定 11:30 全校終会
- 10日(金) 給食開始 放課後チャレンジ塾
- 14日(火) 集金日
- 15日(水) 交通立ち番 安全点検

心を燃やせ 仲間と共に 全力笑顔の学習発表会

学しゅうはつびようかい

一ねん

きょうは、学しゅうはつびようかいでした。さいしよは、きんちようしていただけ、とちゅうからきんちようがなくなつて、たのしくなつてきました。はくしゆをしてもらつたのが、うれしかったです。

学しゅうはつびようかい

一ねん

きのうの学しゅうはつびようかいで「ぼんたのしかつたのは、がつそうでした。れんしゅうのときは、ぜんぜんできなかつたけど、本はんは、れんしゅうのときまちがえていたところもうまくひきました。二ねん生になつたらもうまくひきたいです。

学しゅうはつびようかい

二ねん

ぼくが前に立つたら、二百人ぐらいつわつていました。さいしよに歌を歌つたら楽しくなりました。さいしよのことも大きな声で言えました。樂きのぼうをもつたらきんちようしたけど、うまくきよくひけました。ミッキーマウスをひいたら音がひびきました。ひいたら楽しかったです。らい年もがんばりたいです。

学しゅうはつびようかい

二ねん



今日、学しゅうはつびようかいがありました。出番じやないときは、ずつときんちようしなかつたけど、出番になつたらいきなりきんちようして、あまり声が出ませんでした。けど、先生をずつと見ていたらきんちようもなくなつて、大きな声で言えました。またしたいです。

きんちようしなかつた発表会

三ねん

今年のげきで、私が心のこつたことは、三の場面です。理由は、やさしいお母さんを演じるのが、むずかしかつたからです。自分では、やさしい声色で言えているか、わからなくてちよつと不安でした。

練習では、声が小さかつたり、セリフがはやかつたりして、体育館での練習が始まるとアドリブをしつたりしてはならなくてむずかしかつたです。本番では、あまりきんちようしませんでした。どちらかというところ、リハーサルの方がきんちようしました。来年は、合そうで木きんとかあまり使わない樂きをやりたいです。

学習発表会

四ねん



今日、学習発表会がありました。学習発表会でがんばつたことは、声を大きく出したことです。リハーサルの時は、大きな声でセリフを言えなかつたけど、本番の時は、後ろの席まで聞こえる声で言えたのでよかつたです。リハーサルのふり返りに書いていた「後二日て声を大きくしたい。」というのができてよかつたです。金曜日のときよりは大きな声を出せました。でも、木曜日の時よりは声が小さかつたので少し声が大きくなつたらいいなと思つました。

大きな声を出す時にしたくふうは、二階のライトを見て少しでもきんちようをまぎらわすことです。大きな声を出せるか不安だつたけど、出せたのでよかつたです。動きも練習の最後の方で覚えただけ、覚えられてよかつたです。

いい学習発表会になつたと思つたのでよかつたです。

学習発表会を終えて

五ねん



学習発表会が終わりしました。ぼくは、セリフのところ、とてもきんちようしました。きんちようして、セリフをゆつくりしゃべると、動きを大きくすることをわすれそうになつたけど、がんばりました。

歌は、自分から大きな声を出すのと、口を大きく開けることを意識してがんばりました。四年生の時よりとても声が出るようになったからよかつたです。

三ねん

思つていたよりきんちようしなくて、大きな声で歌えませんでした。リコーダーは、ファ#とソ#とラストのみんでそろえるところをまちがえずにできたのでよかつたです。

ヤマトの合奏では、休み時間も練習して、今までは練習してきたから、まちがえずにできるようにがんばりました。ラシドレミと速くひくところは、まちがえてしまつたけど、それ以外はうまかつたのでよかつたです。

学習発表会にむけて五年生みんなががんばると覚悟を決めて練習してきたので、本番は後悔しないようにできてよかつたです。

小学校で最後の全校行事 学習発表会

六ねん

学習発表会のことを考え始めたのはずいぶん前のことでした。けれど、私は少し前のことのように感じます。今まで、脚本・台詞などの係のことや、自分たちの合奏などに休み時間を使って練習してたので、その学習発表会が終わつてしまつたと思つたととてもさみしく思つています。

六年生の発表の歌の Believe や wish など毎日何回もみんな練習してきたけど、本番はたつたの一回きりだつたのもつと歌いたかつたです。Music を練習し始めたときは、ソプラノとアルトで分かれたときの声の大きさや、音程が違つたところなどがとても心配で不安だつたけど、何回も練習していくうちにだんだんと自信がもつてきて、歌うことも楽しくなつてきました。

六年生の発表で私は、台詞や照明を考える係でした。台詞は自分たちで「から考えたので、最初はなかなか意見がまとまらず大変でした。テーマを考えるだけでもたくさん時間がかり、台詞を考える上でも大変なことがたくさんありました。例えば、台詞は長すぎず、短すぎないようにし、みんなが同じくらい長さの台詞にすることでした。他にも大変なことがたくさんあつたけれど、自分たちで考えてきたからこそ他の学年とは違つた六年生らしい発表ができたと思つています。

五・六年生の合奏「宇宙戦艦ヤマト」は最初から最後まですべての樂器をきれいにそろえることができてよかつたです。最初にみんな合奏したときはすぐばらばらで今どこを演奏しているかも分からず、手が止まることも多かつたです。しかしどん練習をしていくと、まずは自分のパートが弾けるようになりました。そのあと練習していくと、みんなが合つてくるよようになり、さらに他の樂器の人の音をきく余裕ができました。しっかりとそろつていく音を聞いていると、合奏というものができてくるんだなと感じることができ、うれしくなりました。宇宙戦艦ヤマトという曲はとてもかっこいい曲で、そろつともつと迫力が出てきます。もつと練習してうまくなつて、観客の人を圧倒できるよような合奏にしたいと思つている人が強くなり、休み時間に練習することも楽しくなりました。

六年生になると、次に何があるのか見通しを持つて行動しないといけないと改めて実感しました。また、台詞を言うときの声の大きさや歌うときの声量、移動の仕方なども「から五年生のお手本となつていることも改めて実感しました。私は六年生みんなの心を一つにしてがんばつていけば、「から五年生みんなもがんばろうと思えるんだなと感じました。

この学習発表会で私達六年生は小学校での全校行事が終わつてしまつた。もう、みんな協力して大きな行事をすることはできないかもしれないけど、毎日みんな協力してとても楽しい小学校生活になるよようにしたいです。

